

科目	コーチング論	担当	横井 康博	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

**【授業目標・到達目標】**

社会において時代ごとに特別な価値が生み出される。それはスポーツ界においても同様で、「俺の言うことを聞け、俺の言う通りにやれ」では通用しない時代に入りました。

そこで本講義では、コーチングに関する基礎的理論を習得し、それをどう現場に生かしていくかを考える。また、プレーヤーやチームをより効果的にマネジメントしていく方法について討論する。

**【履修注意】**

講義ではあるが、受け身形式ではなく指導者の視線からの討論を交わしていくため、積極的参加の意識が必要である。定期試験受験資格者は、基本的に皆出席者のみ。スポーツマネジメントコースの学生は、必修。

**【評価方法】**

テスト40%、中間チェック・ミニレポート30%、出席点30%で評価する。

**【試験について】**

筆記試験を行う。

再試験対象者の条件： 出席要件を満たした者。

**【予習・復習】**

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

**【教科書】**

必要に応じてプリント配布を行う。

**【参考書】**

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	スポーツ指導者とは	現代コーチに要求されること
2	指導者の心構えと視点	コーチの日々の仕事とは
3	コーチの対処法	特別な状況、困難な状況に対する対処法
4	モチベーションコントロール	選手のメンタル部分への配慮
5	コーチのホスピタリティ	人間関係のマネジメント
6	指導者育成プログラムの理念Ⅰ	競技スポーツを取り巻く環境について
7	指導システムと指導者の役割	一貫指導システム上のネットワーク
8	競技力向上を目指した指導計画	一貫指導とそのシステム化の重要性
9	プレーヤーとの望ましい関係	望まれるスポーツ指導者像
10	ミーティングの方法	コミュニケーションスキルとしてのコーチング
11	競技者育成プログラムの理念Ⅱ	長期的な視野にたった競技者の育成
12	指導計画の立て方	コーチングの基本的な理論
13	指導者育成と評価	事例についての検証
14	競技者育成における指導計画	海外の競技者育成システムの事例を紹介
15	まとめ	コーチングとティーチングについて
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ